

平成28年度 第1回
北海道立総合博物館協議会

議 事 録

日時：平成28年8月10日（水） 10時開会

場所：北海道博物館 記念ホール

平成 28 年度 第 1 回北海道立総合博物館協議会議事録

会議名	平成 28 年度 第 1 回北海道立総合博物館協議会
開催日時	平成 28 年 8 月 10 日（水） 10 時～ 11 時 55 分
開催場所	北海道博物館 記念ホール
出席委員数	5 名出席（欠席 2 名）
傍聴者	0 名

※・単なる相づち及び言い直しなどは、原則として割愛する。

・丸括弧で発言に対する補足的な説明を記した。

・内容に応じて《意見・提案》、《質疑応答》等の見出しを便宜的に作成した。

目 次

1 開会	1
2 館長あいさつ	1
《資料確認》	1
《事務局紹介》	1
《出席状況確認》	2
3 議題	
《会長あいさつ》	2
議題（１）報告事項１ 平成 27 年度事業実績について	2
《質疑応答 1》	3
《質疑応答 2》	3
《質疑応答 3》	4
《意見・提案 1》	4
《質疑応答 4》	4
《質疑応答 5》	5
《質疑応答 6》	5
議題（２）報告事項２ 平成 28 年度事業計画について	6
《質疑応答 1》	6
《意見・提案 1》	8
《意見・提案 2》	9
《意見・提案 3》	9
《質疑応答 2》	10
《意見・提案 4》	10
《質疑応答 3》	11
《意見・提案 5》	12
《意見・提案 6》	12
《質疑応答 4》	12
《質疑応答 5》	15
《意見・提案 7》	15

《意見・提案８》	15
議題（３）その他	16
４ 閉会	17

1 開会

右代学芸主幹 おはようございます。まだ定刻よりちょっと早いのですが、ただいまから平成28年度第1回北海道立総合博物館協議会を開催したいと思います。よろしくお願いいたします。本日の進行は私、右代が担当いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、開会にあたり、石森館長の方からご挨拶をお願いいたします。

2 館長あいさつ

石森館長 皆様、おはようございます。お忙しい中ご参集賜りましたことを、厚く御礼申し上げます。今年度の第1回目の博物館協議会でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。最初に2つだけ、嬉しいニュースがございます。既にお伝えしているところでございますけれども、日本展示学会賞の作品賞。テーブルの上に（受賞の楯を）置かせて頂いておりますが、館員の努力の結果といたしまして、道内では初の受賞ということでございますので、大変嬉しい事でございます。そしてもう1つのニュースは、今年度の特別展「ジオパークへ行こう！」を7月8日から一般公開をしていますけれども、今週末に3万人の入館者達成という事でございます。昨年度の特別展「夷酋列像」展が5万1千人を超えたところでございますが、現在の所では「ジオパークへ行こう！」展の方が入り込み状況が良く、うまく行くと最終的に7万人越えも目指せるのではないかと考えております。また実際に関わっているチームの皆さんが、毎週土日になんらかのイベントを組ながら、頑張っているところでございます。まだまだ至らない点多々あるところではございますけれども、館員一同頑張っているところでございますので、委員の諸先生方におかれまして、様々な形でアドバイスを頂けますようによろしくお願いいたします。今日は本当にありがとうございます。

《資料確認》

右代学芸主幹 それでは、配付資料の確認をさせていただきます。お手元の配付資料については、資料1が「議題（1）報告事項1 北海道博物館 平成27年度事業実績」の資料でございます。1ページから12ページのものになっております。それから資料2が「議題（1）報告事項2 北海道博物館 平成28年度事業計画」の資料でございます。これが11ページです。不備がございましたら、事務局の方にお申し付け頂ければ交換いたします。よろしいでしょうか。間違いないでしょうか。

《事務局紹介》

右代学芸主幹 それでは4月に環境生活部文化・スポーツ局文化振興課、環境生活部アイヌ政策推進室の担当が変わっておりますので、ご紹介いたします。文化振興課の林主査でございます。

林主査 環境生活部文化・スポーツ局文化振興課の林でございます。よろしくお願いいたします。

右代学芸主幹 アイヌ政策推進室の丹羽主幹でございます。

丹羽主幹 環境生活部アイヌ政策推進室の丹羽と申します。よろしくお願いいたします。

《出席状況確認》

右代学芸主幹 それでは早速、会議の方に入りたいと思います。本日は加藤副会長が欠席、大原委員が欠席という事で、5名の委員で会議を進めさせて頂きたいと考えております。これは北海道立総合博物館条例第25条第2項により、委員総数の2分の1以上の出席で会議が成立ということでございますので、本日は2分の1以上出席ということで会議が成立しているという事で、ご確認して頂ければと思っております。会議の公開については、本日も傍聴席を設けております。一般公開となりますので、よろしくお願いいたします。それではこの後の議事進行を、佐々木会長にお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議題

《会長あいさつ》

佐々木会長 ありがとうございます。皆さんおはようございます。夏のお忙しいところ、お集まり頂きましてありがとうございます。先ほど石森館長からもご報告がありましたように、学会賞を頂いたことであるとか、今の特別展が順調に入館しているという嬉しいニュースを聞いて、私も嬉しく思っております。ただ、そうはいえ、こういう我々の協議会というのは、調子が良い時にこそいろいろ厳しい意見であるとか、これから発生するような課題について、評価という立場からいろいろな事を意見するというのが、我々の位置付けだと思いますので、今日も忌憚のない皆さんのご意見を頂ければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。本日の議題ですが、お手元にありますように平成27年度、昨年度の事業実績についてと、今年度、平成28年度の事業計画、その他という形になっております。協議会は12時前までに終わりたいと思っておりますので、円滑な議事の進行に関して、ご協力をよろしくお願いいたします。委員の皆様、よろしくお願いいたします。それでは早速議事に入りたいと思います。報告事項の1項目として「平成27年度事業実績について」事務局の方から説明をお願いいたします。

議題（1）報告事項1 平成27年度事業実績について

右代学芸主幹 右代の方からご報告させていただきます。

〈以下、資料1に基づいて、平成27年度事業実績を報告〉

佐々木会長 はい、ありがとうございました。今、右代さんからご説明があったのは、資料1の「北海道博物館 平成27年度事業実績」というところです。既に皆様方のお手元にある資料2「北海道博物館 平成28年度事業計画」とすごく関係している内容だと思うんです。これから、皆様方からご質問等やご意見を頂きますけれども、平成27年度のは既に3月のこの協議会の際に、事業実績に関する内部評価ということで、粗方説明はもう既に頂いているもので、それから3月に新たに加わった数字などが加わっておりますので、少し数字が変わっているかもしれませんが、既にご説明頂いているものです。色んな事業のあり方であるとか、考え方について質問があると思うんですけど、それは次の平成28年度の今やろうとしている事業の中でどうなんだっていうように、そこで質問をして頂いた方がより有意義ではないかなと思いますので、平成27年度事業実績については、事実関係の確認などを中心にご

質問、ご意見など頂ければと思います。事業に対するもっと根本的な考え方みたいな部分は、次の平成28年度のところで一括してご意見頂ければと思います。そのように進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは今の右代さんのご説明に関しまして、何か確認などはいかがでしょうか。

《質疑応答1》

竹垣委員 これは確認になるのですが、8ページのオーディエンス・リサーチで「夷酋列像」の展示会で、493人のたいへん満足を受けてですね、その一方で不満足、たいへん不満足についてもそれなりの数がありますけれども、主な意見と言いますか。良かった所、不満足な所、主な意見があれば教えて頂きたい。

佐々木会長 確かに『夷酋列像展』の不満足、たいへん不満というのは、気になる数字ではあると思うので、内容的なことが分かれば教えて下さい。

右代学芸主幹 『夷酋列像展』の大変不満であるという意見については61件ございますが、これは当初いろいろ計画した中で、ネームプレートが小さいという指摘、展示室が様々な条件で暗いという指摘。どうしてもブザンソンから借用してきた資料は、40ルクスという（借用規程の）設定がありましたので、その関係で観覧に関わる暗いという問題が指摘されております。おおまかではありますが、その2点が大きな指摘でございます。

佐々木会長 どうですか。

竹垣委員 特に内容に対しては、なかったという理解ですか。

右代学芸主幹 特に内容については、大きなものとしてはありませんでした。

佐々木会長 こういうものすごく入る展覧会というのは、往々にして展示環境とかちょっとしたラベルとかパネルの文字の大きさとか、展示内容と直接関係ないところというのは、実は致命的な評価を落とす原因になると思いますので、そういう経験値も今後の展示に生かして頂ければ一つ有り難いかなと思います。他にはいかがでしょうか。

《質疑応答2》

宇佐見委員 確認ですが、7ページの（赤れんが）サテライトの利用者数の数字の所ですが、あの場所は誰でも入れる事になっているので、カウントはどのようにやっているのかという事が一つ。あと、展示内容についてご意見等々があるのかどうかについて、伺えますか。

右代学芸主幹 赤れんがの入口のところで、守衛さんに1日何人入ったかというカウントをして頂いております。その中で、赤れんががどのように利用をされたかという数字が61万という事になっております。

宇佐見委員 あの場所は、他の展示のコーナーもありますから、（この数字は）総合的な人数という事ですよね。

右代学芸主幹 どちらかというと、総合的な数字です。

宇佐見委員 そういう事ですよね。北海道博物館のサテライトの人数かどうかは、わかりませんよね。

右代学芸主幹 もちろん、そうですね。

《質疑応答 3》

宇佐見委員 そういうことですよね。あと、ご意見等々はあつたりするのでしょうか。(赤れんが) サテライトの展示についてのご意見とかはあるのでしょうか。

右代学芸主幹 サテライトについての意見等については、アンケートとかそういうものを設置してはおりませんので、これからその辺りを逐次考えて行く事になるかと思います。

宇佐見委員 わかりました。

《意見・提案 1》

佐々木会長 他はいかがでしょうか。では一つだけ。確認というよりも、次の平成28年度に向けての意見というか、コメントです。今回この初年度の事業実績というのは、確かに目標値設定はなんらかの形でしなかったらならなかったと思うんですけども、設定の根拠みたいなものを今後28年度、29年度に向けて、データが溜まれば溜まるほど、きつともう少しヒットした目標値が出せると思うので、そんな事も今後議論して頂ければより良いかなと思います。往々にして、目標値を甘く設定しすぎているかなと感じましたので、これはコメントです。他、いかがでしょうか。

《質疑応答 4》

本田委員 6ページのオリジナルグッズですけれども、この種類が11件あるという事でしょうか。販売数が11件という事でしょうか。どれぐらいの数になって、そこで何らかの収益があった時に、それはいつかの事業のどういう所に組み込まれているのかとか、その辺りを教えて下さい。

佐々木会長 この11件というのはどういう意味かという事と、どのぐらいの販売数があって、売上げの収益はその後どのような使われ方をするのかという事です。

本田委員 そうです。

右代学芸主幹 『夷酋列像展』の関係で作ったオリジナルグッズや、博物館のホルダーや絵葉書など、様々なオリジナルグッズを作りました。それが11件あるという事でございます。その内訳を示せば良かったと思います。売上げの関係は、実際には把握しておりません。ただ、様々な売上げからすると、例えば『夷酋列像展』の図録はかなりの数が出て、北海道博物館と国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館含めて約1万部売れたという報告も頂いております。それから、絵葉書等も完売に近いということでございます。その辺りの販売率はかなり高くなっているかと思っております。

佐々木会長 今回ミュージアムグッズの完売に関して、ショップと博物館側はどういう関係になったかということがわかれば、今の本田先生のご質問の答えになるのではないかと思います。

右代学芸主幹 販売の収益に関しては、直接博物館とはあまり関係がございません。

佐々木会長 販売会社が設けようが損しようが、博物館側としては全く関係ないというような契約を結んでいるという事でしょうか。

右代学芸主幹 関係ありません。

佐々木会長 本田先生、よろしいでしょうか。

本田委員 図録とかも一切関係ないんですか。

佐々木会長 今はオリジナルグッズの事を言っていましたけれども、他の印刷物(図録等)み

たいのものも同じ契約なのでしょうか。

右代学芸主幹 そうです。図録等も販売しておりますが、それともかなり売れております。基本的には利益的なものをかけて販売はしておりませんので、関係ありません。

小川センター長 指定管理者の収入です。

右代学芸主幹 指定管理者の収入として入るんですが、大きな利益としてはかけておりません。

佐々木会長 先ほど言っていたオリジナルグッズと印刷物は同じ扱いでいいのですね。指定管理者の収入ですね。

右代学芸主幹 指定管理者の収入になります。

北総務部長 すみません、付言させてください。昨年度開催した特別展『夷酋列像展』は北海道新聞社ほかと実行委員会形式でやっておりました。そのため『夷酋列像展』のオリジナルグッズや図録等については、実行委員会の収入になっております。一方、通常の販売しているグッズや『夷酋列像展』の図録以外の書籍類の収入は、指定管理者の方に入ります。大雑把に言うと、このような形になります。

佐々木会長 ありがとうございます。今の件、他の委員の方、何かよろしいでしょうか。

《質疑応答 5》

竹垣委員 結果については把握してないという事はわかりましたが、発行についての審査みたいなこと、つまり受益というのは、一応北海道博物館の承認を得て発行しているという理解でいいのでしょうか。

右代学芸主幹 基本的には、北海道博物館の承認を得て販売という形になっております。

佐々木会長 今の竹垣委員の質問は、オリジナルグッズも印刷物も全て、博物館の内容についてのチェックをちゃんと通っているかどうかというご質問については、その通りだということで、よろしいでしょうか。

右代学芸主幹 はい。その通りです。

《質疑応答 6》

宇佐美委員 関連してよろしいでしょうか。カフェの運営自体は、業者に委託をしているんです付け。

右代学芸主幹 指定管理者です。

宇佐美委員 これも指定管理者ですよ。そういう事ですか。カフェのこういうものを出して欲しいという意見交換は、もちろんしているんですよ。

右代学芸主幹 もちろんやっています。

宇佐美委員 展示に則した物やちなんだ物の販売とかもありますよね。飲み物とかも。そういうのも、こちらから指定管理者に要望をしてということですね。もう少しこういうようにして欲しいという意見は言えることは言えるんですね。

右代学芸主幹 はい、言えます。ただ初年度でしたので、11 件が最大の努力だったというように捉えて頂ければと思います。

宇佐美委員 グッズはね。

佐々木会長 他この今のショップの件でも、グッズの件でも結構ですが、他に全体的にいかがでしょうか。確認事項はないでしょうか。よろしいですか。今の事業を見ていて、いろいろな

基本的な考え方とか、事業のあり方については平成28年度、次の所で意見を言って頂いた方が、今年度に反映できると思いますので、報告事項1はこれで終了いたします。

議題（２）報告事項２ 平成28年度事業計画について

佐々木会長 引き続きまして報告事項2「北海道博物館平成28年度計画について」事務局からご説明頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

右代学芸主幹 それでは報告事項2「北海道博物館平成28年度計画について」の説明をさせて頂きたいと思います。説明にあたっては、舟山学芸部長より説明をして頂きたいと考えております。なおガバナンス体制の育成については、北総務部長。アイヌ民族文化研究センター事業計画については、小川アイヌ民族文化研究センター長より報告させていただきたいと思います。それでは舟山学芸部長、よろしくお願いいたします。

舟山学芸部長 私の方から「北海道博物館 平成28年度事業計画」の報告をさせていただきます。
〈以下、資料2にそって平成28年度計画を報告〉

右代学芸主幹 それでは北部長よろしくお願いいたします。

北総務部長 引き続き、私、北の方から「北海道博物館 平成28年度事業計画」の8ページ「ガバナンス体制の育成」のご説明をさせていただきます。〈以下、資料2「ガバナンス体制の教育を報告〉

小川センター長 「北海道博物館 平成28年度事業計画」の9ページ「アイヌ民族文化研究センター事業計画」（抜粋）を手短にご報告させていただきます。〈以下、資料2「アイヌ民族文化研究センター事業計画」を報告〉

佐々木会長 ありがとうございます。ただいま3名の方からそれぞれ資料の説明がありました。先ほどの平成27年度の実績報告の件も加えまして、今年度の事業に関して、ご意見やご質問などを頂ければと思います。

〈質疑応答1〉

宇佐見委員 まず、3つ程あるんですけども、1つはアイヌ民族文化研究センター関係の企画展示等々はある程度具体的なものはわかったのですが、それ以外の『ジオパーク展』以降の下期の企画展の内容がよくわからないので、具体的なことが決まっていたら教えていただきたいのが1点。2点目は4ページの「7 道民参加型組織の整備」ということで、先ほど平成27年度の所でも思っていたのですが、結局平成27年度は着手できなかったということのようですので、せっかく道民参加型組織の整備ということを柱の一つに据えていらっしゃるの、是非とも具体化して、ミュージアム・パートナーとか友の会を今年度中には是非とも具体化して頂きたいと思っています。これは大切なことだと思いますので、是非ともお願いしたいという要望が一つ。3点目は全体を通してですが、目標値の設定の仕方が今ひとつよくわかり

ません。つまり、総じて平成27年度より低いものが多いですよ。例えばホームページ数もダウンしているし、利用者満足度も実績は85.3%あったのに、目標値が80%というのは、もう少し上げて良いのではないかと思います。6ページの(「12情報発信」の)「(3)道民の「知りたい」気持ちへの支援」の所でも、写真提供数やレファレンスの目標値は前年度と同じ数字ですよ。レファレンス件数、アンケート件数は、前年度実績を踏まえたものなんですよ。写真の提供はもう少し実績があったのに、どうしてこのような目標値にしているのか。これは評価制度の導入がこれから始まりますので、そこの兼ね合いで遠慮をして低めにしているのかなと勝手なことを思ったりして、勘ぐったりしてしまうのですが、せっかく良い実績があるので、もう少し目標値を高めても良いのではないかなという感想です。ざっと質問点とか3つぐらい欲張って言いました。

佐々木会長 ありがとうございます。事務局の方、いかがでしょうか。

舟山学芸部長 まず、今年度の展示のスケジュールを私の方からご説明いたします。現在開催しております特別展「ジオパークへ行こう」が7月9日から9月25日まで開催いたします。その後10月以降の展示スケジュールにおきましては、具体的に間もなく行事案内として発行される訳でございますけども、現状としてお示し出来るところでは、企画テーマ展として10月14日(金)から11月27日(日)まで「きれい?不思議?楽しい?漂着物~北の海辺でお宝みつけ!~」という、企画展を企画しております。12月22日(木)から1月15日(日)までは、蔵出し展「アイヌ民族の造形美—北海道博物館所蔵の木盆」展を開催いたします。2月3日(金)から3月31日(金)までは、企画テーマ展といたしまして、「あったか住まい」を企画しております。今は漂着物展から準備を進めている所でございます。

右代学芸主幹 私の方からは目標値の設定の問題について、ご説明させて頂きたいと思っておりますが、まずは北総務部長の方から道民参加型の関係について、説明をさせて頂きたいと思っております。

北総務部長 宇佐見委員の方からご質問ございました「道民参加型組織の整備」について説明をさせて頂きます。旧メイト、パートナー、ボランティアという言葉が多く出てきております。これらはどこがどのように違うのか、まずは明かにしていきます。それから、今開拓の村にボランティア制度が導入されておりますが、これを本館に導入した場合にどのような課題があるかということ。それから、主な県立博物館、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館等、これらの他館の導入状況の有無を把握する。把握した上で、それぞれの導入状況の背景ですとか課題、効果、対策等を見ていきたいと考えております。同時に、いつまでも進まなかったら困りますので、パートナー制度導入までの工程表、ロードマップを作成して参ります。こういうことで、道民参加型組織の整備を担保して参ります。

右代学芸主幹 目標値の設定でございます。今配布した資料が目標値の根拠となる資料でございます。細かく全部説明すると時間がないと思いますので、総合展示室の利用者数のところの目標をご説明したいと思います。目標値の根拠という事で示していると思うのですが、ここの所は、平成27年度の目標値 72,400 人ということの設定した根拠について示しております。これに対して平成27年度の目標値に対して、平成28年度は目標値を10%増という事で、80,000 人を設定しております。その根拠となるのは、どのような積算を行ったかですが、総合展示の展示室の改善と言うことで、クローズアップの展示計画、入替があることによって、1%増というのが見込める。それから多言語サービス「ポケット学芸員」の広報活動について1%

の増を考えました。それから、ミュージアムトーク、子ども向けの展示の導入ということで、1.5%を考えております。それから普及事業の強化の中の総合展示のところでは0.5%増というのでも考えております。戦略的な広報媒体の強化を考えて、様々な広報媒体を一層活用して来館して頂くということで2%。プロモーション関係のビデオを撮影したことで0.5%。赤れんがサテライトの利用を考えて、その方々が北海道博物館に来て頂くということで0.5%。ウェブサイト上の関係から情報を得て来館される方ということで2%。施設及び周辺環境の影響で、指定管理者との連携を図りながら増員を図るということで1%。以上の合計で10%の増ということで、80,000人を設定しているということでございます。実際には細かいところで積算しながら、この8万という数字を、平成28年度の計画値ということで設定しているところでございます。以下細かいところがあるかと思いますが、概ね5%から10%。特出するところがどこかと言いますと、イベント参加者数の増というところが20%増ということで、増加を見込んだ計画値を設定しております。以上でございます。

佐々木会長 いろいろな意見があるとは思いますが、どうでしょうか。

宇佐見委員 細かいところの10%程度というのはわかりますけれども、ひとえにこの『ジオパーク展』みたいにかなり充実した大掛かりな企画展示をすると、かなり人数が入ったりしますよね。そういう事との兼ね合いというのは、どのように考えてらっしゃるのか。去年は『夷酋列像展』、今年は『ジオパーク展』のように、かなりの実績をあげてらっしゃるので、ということをお案して、本当にこのままの10%でいいのかという検討の議論はなかったのでしょうか。

右代学芸主幹 基本的にはそういう形でいろいろと協議会の中でもお話があったかと思うのですが、いわゆる5年間で1つの目標値として計画しておりまして、それを達成するにはどのような形で、右上がりの目標値の設定ということを考えております。今年度が例えば10万とか、来年度が9万人とかというような、でこぼこした5カ年の数値ではなくて、右肩上がりの計画値を立てて行こうというので、計画値の設定ということで考えました。ですので、実際に今お話しされたような形で、今年は15万人入れるぞとか、20万人入れるぞとかというような形の計画値については、非常に5カ年の中で大きなズレが出てきた時に対処出来ない問題が出てくるので、無難なところで10%というのが一番検討した数値でございます。協議会の中でもいろいろご指摘があったと思いますが、オープンしてから1年、2年というのは御祝儀的な入館者増というのがあるだろうという事で、相対的に5年間見た中で、どういう数値が適切なのかということで、5カ年間の目標数値を10%超えるような形で設定をしているところでございます。

《意見・提案1》

宇佐見委員 わかりましたけれども、今奇しくもおっしゃった無難な路線というところになっていることは、とてももったいないという感想を持ちます。地道に高めていくという方向性はそれは一方であって良いけれども。これは予算との兼ね合いもあるでしょうけれども、1年に1つぐらいはかなり力を入れた企画展をやろうかということで、道との兼ね合いもあるのですが、予算をしっかりと獲得しながら、せっかく皆様方のモチベーションも今高まっているところだと推察いたしますので、この地道な目標値プラスもう少し高い目標を持てるところを、2年に1回ぐらいはずっとやっていって欲しいなと思っております。来年度以降もこの数値が高

まること、無難路線からの脱却を要望したいと思います。

右代学芸主幹 わかりました。ありがとうございます。

《意見・提案2》

佐々木会長 今回のこの話は、5ヵ年の目標値の設定の仕方と関係している話ですね。それを5で割っているわけですから。基本的に言うと。次の5ヵ年の目標値設定の議論に反映される話になるのではないかと私は予想します。それにプラスして、今宇佐見委員がおっしゃったことで、無難に5ヵ年を区切るというやり方も行政的には正しいやり方かもしれないのですが、とはいえ内部的にはここを目指しているというトンがった目標値は持ってもらいたいなど、そういう話ではないかなと思っていました。

右代学芸主幹 はい。ここで用語のところでございますけど、館内の目標値というのは、平成28年度の目標値は72,400、これは5で割った数字であります。平成28年度の計画値というのは、先程言った根拠で10%増を考えております。また平成29年度になれば、その辺りのことを更に検討して、例えば、今『ジオパーク展』で入っている人数と総合展示で入っている人数はどのぐらい利用増があったかとか、そこら辺も検討しながら次の平成29年度の目標値というのは、また変わって来ると思うんですね。ただ、前回の協議会でもお話をしたと思いますが、目標値については5ヵ年変えないで行かせて頂きたい。ただ、計画値については、先ほど宇佐見委員や佐々木会長からご指摘がありましたように、とんがらせるのかどうなのかも含めて今後考えていきたいなと思います。ただ、無難なところで右肩上がりに行きたいなというのが正直なところではあります。以上です。

佐々木会長 今の見解についていかがでしょうか。

《意見・提案3》

本田委員 最近いろいろところで使われている、「アウトプット」、「アウトカム」という考え方があってと思うんです。「アウトプット」というのは数値です。それに対して数字だけが分かる問題ではないわけであって、自分たちはそれをどういう目的で、どういう意義のために行うのかということが必ずあるわけで、その意義とか目的に添った数字というのは別枠で取られますよね。恐らくここも、何人入ったという事だけが目標ではないわけであって、そうすると数値の取り方でもそういうものを1つの指標として出して頂きたいなという気がします。例えば『ジオパーク展』でしたら何人入ったかと、恐らく『ジオパーク展』をやることの意義というのは、内部的に様々な議論がなされたはずであって、その意義にとって、例えば小学生は何人だとか、これを見た事によって、どういう波及効果が起こったかとか、そういうような事も含めての数値というのが、やっぱりこれからしっかり取られていくべきなのではないかと思います。是非とも今年度の実績報告の時には、そういうものを出して頂けるような数値ということ、を、予め立てられて、そういう事がなければ数字は取れませんので、その点をもう一度お考え頂いて、そのような事についてご検討頂きたいなと思います。それが目標値ということに絡んで来るのではないかなと思います。

佐々木会長 ありがとうございます。何かもしご意見がありましたら。

右代学芸主幹 まだ、基本的な数値のデータが、全体的にないというのが現状です。お配りした資料もそうですが、平成27年度の利用者数に対して、その波及効果がどうだったかという

のを検討しながら、5ヵ年間の目標値というのを立てております。これから平成28年、29年と続く中で、基礎数値というのはだんだん出来てくると思うので、その中でまた数値的な問題や関連性の問題というのが変わっていくような形で考えております。その辺りの波及的なものも含めて、今後も検討して参りたいなと思っております。

本田委員 すみません、もう1点だけ。先程の補足です。目標値というのは「アウトプット」であって、そうではなくて「アウトカム」と一般に言われる数字を出すためには、その数字を取ろうとしない限り入ってこない訳であって、そのような作業が行われているのかということを含めて、ご検討頂ければというお願いでございます。

右代学芸主幹 はい、ありがとうございます。

佐々木会長 今のはすごく大きいと思います。数字でOKでも中身の、元々の事業の目標に達して目的にフィットしなかったら、あまり意味のない数字になってしまいます。これは意識して「アウトプット」と「アウトカム」と両方（の数値を）取るということが大事ではないかなと思います。ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

《質疑応答2》

竹垣委員 計画の件はわかりましたが、要するに誰を見て作った計画かということです。もちろん経営計画としての数字、運営計画としての数字、これは大事なことだと思うんですけどね。では逆にお聞きします。今回の『ジオパーク展』のパンフレットは何枚刷られましたか。要するに、特別展示室利用者数の目標と整合性があるのかという話です。

右代学芸主幹 はい。チラシは20万枚作っております。

竹垣委員 来られた人に渡すパンフレットの話ですよ。

舟山学芸部長 今回指定管理者との連携を強めまして、広報用につきましては新たに通常の物に加えまして、指定管理者の協力を得まして、これまで行っていなかった幼稚園関係含めて増やしましたので、通常の10倍以上の配布をしております。

《意見・提案4》

竹垣委員 私が言いたいのは、例えば今回特別展示室利用者数の計画が63,400人であるのであれば、多分ジオパークのためのパンフレットは本来だったら、4万部以上作ってはいけないということになると思うんです。来た人に対してね。でもそんな訳ないですよ。1つは計画とやっていることの整合が本当に取れているのかどうか。指定管理者任せなのかという事です。逆に計画されるのは勝手ですけれども、では勝手に来た沢山のお客さんにどういうホスピタリティを提供するのかという問題が出てきますよね。現実オープンの際は、昼ご飯を食べる施設は開拓の村しかなかったのが、完全にパンクし続けていたんです。そういう事は今解消されているのかなというのはすごく気になっているところです。このままの計画でもしやるとして、その無難な計画に対して沢山来たお客さまに対しては毎日館長をですね、駅前に立たせて場内整備をさせるのかという。そういう事を言っているんです。宇佐見委員が一番心配しているのは、計画を立てる。それに対して上積みして人が来る。それに対してちゃんとしたサービスが提供できるのかと。先程、『夷曾列像展』の時に小さいとか、暗いとかいう話があったと思います。その点だって、ひょっとしたら計画通りに来られるという予想に対して、ゆっくりお客さまが見られるようなサービスを行われていたら、暗くたって、小さくたって、ゆっくり

読めて、結果的には大変不満ということは書かなかった可能性もありますよね。ですから、計画を作るのはそれはいいんですけども、実際に来るお客さまにどうサービスを行うのか、それに対してどれだけの手当てを行うのか、それを考えるという事を、是非評議委員として要望したいです。

佐々木会長 ありがとうございます。今のことについて、事務局から何かありますか。

右代学芸主幹 その通りだと思います。その辺りのところを整理しながら、事業等を含めてですね、整合性を取りながらやって行かなければならないと思っております。ありがとうございます。

《質疑応答 3》

佐々木会長 先程、宇佐見委員からご質問があった、2つめの道民参加型組織の件ですけども、北総務部長からもご説明がありました。資料2の4ページの所で、この道民参加型組織をどうするかということが書いてありますけれども、今の協議会の役割に立ち返ってみると、結構大きな問題のはずですよ。なぜかという、道民参加型組織というのは2つの文脈があって、1つは道民が活動する場を提供するという意味と、そもそも経営のあり方に対して、建設的な意見を言うメンバーを作りましょう、という2つのコンテキストがあったと思います。この協議会は、評価を専らやる組織というようになった訳で、任期自体は今は2年のわけですよ。今年度で終わるわけですから、先程ロードマップを作ると言ってましたけれど、であるならば私は全く遅いと思うんですよ。今この時点でロードマップが出てきて、今年度の末までに作ります。来年度頭から発足しますよという感じでないと、次の協議会では、我々は評価をやることになってきますと、建設的な経営に関する意見をいう組織は何なんだということになって来ますので、私としてはその辺りのところの進め方があまりにも遅いのではないかなという印象を受けましたが、いかがでしょうか。

北総務部長 旧メイト、パートナー、そして解説員という一般非常勤職員も当館におられます。こういう雇用の関係の事もございますので、短兵急に進めるというわけにもいきません。きちんと手順を踏んで進めないと、難しい場面に立たされることもございます。決して手をこまぬいているということではなくて、繰り返しになりますけども、きちんと工程表を作った上で進めて参ります。

佐々木会長 今の工程表というのは、いつ出来てくるのでしょうか。

北総務部長 現実的には、早急に作るように努力しますとしかお答えできません。

佐々木会長 今回全体を聞いていて、いつまで何をやるというところがないと、何々の強化を図りますとか、何々を進めますとかはわかるんですけども、例えばアイヌ民族文化研究センターの方だと、いつまでにどうするかという具体的な期限が書かれているのが多かったと思うんです。やっぱり博物館本体の方も、少なくとも今年どこまでやるのか、検討して何を出すのかというのは、明確に書いてもらわないと、実は委員のほとんどの方がお気付きになっていると思いますが、先程（資料1の）平成27年度の実績（に書かれている文言）とこの（資料2の平成28年度の）計画はほとんど同じですよ。それであれば、ここで我々が議論する意味がなくて、いつまでにどこまでやるんだというのを、もう少し明確に書いてもらった方がいいのではないだろうか、私はこれを聞いていてすごく感じました。他の委員の方、今の関係で

いかがでしょうか。

《意見・提案5》

宇佐美委員 私もそれをずっと感じていて、例えば下期の企画展示はと聞かないところには書いていないわけです。抽象的にしか書いていなくて、全体抽象的な書き方しかしていなくて、それこそもったいない。もっと具体的に決まっている話や計画している話は、もっと具体的に書いた方が良いでしょう。計画とかは特に。その方がわかりやすいし、いちいち質問しないと具体的なことがわからないという書き方は、ちょっとどうかと思っています。予算との絡みで書けない事とかいっぱいあると思いますけれども、来年度以降は是非そうしていただきたい、私は思いました。

佐々木会長 ありがとうございます。他にはいかがですか。

《意見・提案6》

本田委員 私もそのことに関係してですが、1ページに展示のところで、「障がいの有無に関わらず、すべての人が利用しやすい」というのは、昨年度の文言とほぼ同じになってますが、全ての人が利用しやすいってものすごく難しいことです。優先順位というのが具体的にあって、それを実施していけるものだと思います。私は春学期に大学の方で、パラリンピック概論という授業をやっています、特にそういう問題を少し考えてきたこともあります。ここも本当にやるという明確な意志があれば、それに向けてのロードマップが先程から（委員の方々が）おっしゃっているように必要なと思います。そうでないと、何年経っても恐らくそんなに進んでいけないものかもしれないということで、是非ともここは早急に考えて頂きたいなと思いました。

宇佐美委員 私も気になってました。障がいのところは、実績として例えば車椅子がどのぐらい使われたのかとか、障がいのある方達にアンケートをとってみて、どういう希望があったのかとか、そういう報告もないですから、計画の中にあるけれど、どうするのだろうかと心配をしていました。この施設をどうするかという、協議会の前段の時にも私は参加をしていて、障害者の方が使いやすいようにと要望した記憶があるのですが、本当に車椅子でここまで来るといってもなかなか大変なんですけれども、これも予算が伴う話だから、いろいろな事があるのでしょうか。実績としてどうなのかなと。数字としてあるのでしょうか。例えば車椅子をどのように何台使ったのかとか。道立近代美術館はそういうアンケートをとってますけど。そういう実績がないと、本田委員もおっしゃったように、この計画の中にやるぞといってもなかなか大変だろうと思います。

右代学芸主幹 お示しはしておりませんが、身障者の車椅子の利用状況とかは全部数字として押さえることはできますので、その辺りの検討というのは、更にやっていきたいと思っています。

佐々木会長 他にはどうでしょうか。

《質疑応答4》

児島委員 重要なお話が出てきましたが、お時間も押して来たいみたいですから、細かいことでお聞きしたい事がいくつもありましたが、省略いたします。今のお話の流れと関連することだけ。2ページの調査研究のところですよ。今のお話で曖昧なところがあるという事と関係してい

るんですけども、4つめの丸ぼちのところで調査研究の目標を明確化するというのが引っ掛かります。目標が明確化されていなかったということの裏返しなのか、これがよくわからないということですね。それから資料の順番で行きますと、私の理解が足りないのだと思いますけれども、3ページのところで開拓の村はここ（北海道立総合博物館協議会）では関係ないお話ではなかったのではないのでしょうか。その点について説明をお聞きしたいと思いました。別枠というお話ではなかったのでしょうか。それから細かいことですが、オーディエンス・リサーチというのが5ページのところにあります。利用者ニーズの把握というところですが、オーディエンス・リサーチというのは、入場者数の全員が出すわけではないですよね。全員がアンケートを出してくれるわけではないので、その何%が不満だとか満足したと言うけども、利用者数全体からしたらどうなのかということはわかるのでしょうか。私は数字が良く解らないので、聞いてみたいと思っただけです。それでニーズの把握ですけども、ニーズの把握と盛んに言われますが、これは大きなことなんですけど、ニーズを作る視点というのはないのでしょうか。ニーズの把握だけではなく、新しいニーズというのが博物館がどういう博物館になっていくのかということと関係して、新しいニーズを作るというのはどうでしょうか。これは意見です。それから7ページの研究紀要の有償頒布ということは、その必要性の説明を伺ってみたいと思います。ウェブサイトでの公開。研究紀要は一般の人が見ることはそれほどないでしょうし、ウェブサイトで見ると人は、有償頒布はいらない。場所も取るしらないということも考えられるので、これがどのぐらい必要なかということをお教えしたいと思います。それから全体的な事として、道立の博物館として、他の道内の博物館、あるいは全国的な他の博物館との関係をどうしようとされてるのかという事に注意をして、今日はお話を伺っていて、平成28年度の計画のところでは、ネットワークについて、だいぶ詳しくなっていて、少し分かりました。それはありがとうございます。子ども向けのいろいろな企画をされている事はとても強調されていますし、いろいろなはっけんなんかとか良くわかるんですけども、小中学生が学校で来ることもあります。もっとおちびさんが親に連れられて、子どもは子どもで面白そうな事で来ます。私は高校生ぐらいというのがすごく気になっていて、高校生は大人といえど大人ですが、実際は大人ではない。高校生あるいは大学生を含めてですけど、そのぐらいの人達の来館というのは、実際にどのぐらいあって、高校生向けと言いますか。子ども向けではない所を対象にすることは、どのようになっているのかということですね。それから高齢者に関しては先ほどから出てきていますけれども、高齢者対策というのはバリアフリーではないので、全体的にインターネットに頼り過ぎていませんかというのが、少し気になります。なんでもインターネット、データベースにすれば、もちろんそれは重要なことですが、高齢者の方たちというのは資源としてはすごく大きいと思いますので、その辺りをもう少し考えて頂けると良いかなという感想を持ちました。それから、こういうことをやりますというのが、計画なんですけれども、それでどのぐらいできましたという報告、評価があると思います。博物館側と協議会側が対立するわけではないので、伺ってみたいのは、実際に計画を立てる段階で、それを実施していく段階で、ぶつかっている問題点はないのでしょうかということです。例えば一番最初のことで言いますと、平成27年度のところで、最初のページで言うと資料審査会を5回実施しました。その資料審査会で、資料審査がスムーズだったのでしょうか。その資料収集をするということについての、直面している問題点というのはないのですか。もしあるのであれば、それをどうにかするというのが、運営をスムーズにしていこうということです。

で、ぶつかっている問題点、こういうことがあるんですということを、そういう点も含めて博物館の方から私たちの方に教えて頂けたらいいのではないかなということも考えました。長くなっています。

佐々木会長 ご質問の部分で、もしこの場ですぐお答えできることがあったら、時間も迫ってまいりましたので、手短に事務局の方からお答頂けますか。ご要望みたいところは、次回の協議会で反映して頂ければと思います。

小川センター長 調査研究関係について、手短にお答えいたします。確かに研究目標というのは漠然とし過ぎていますが、個々の研究課題について研究計画をもう少し明確化しようと。特に当年度内はこういう目標でここまで行くと。あるいは年度内の途中で進捗を確認するといったところを、もう少し明確にしましょうということです。この文の後のところと関わりますけれども、特に昨年度リニューアルして新しくオープンしたということもあって、北海道博物館の学芸員・研究職員の全員、いわゆる博物館の展示その他の業務と調査研究を兼ねているというところがあって、どうしても博物館としての展示資料管理その他の業務に、物理的な時間を傾注してしまって、調査研究の時間をどういった形で自立的に確保するかといった課題もあったものですから、そういったところの関わりで、この部分が出てきたというところがございます。それから、研究紀要の有償頒布、販売についてご質問がありましたけれども、(児島委員のご発言の) 後段で何でもネットに頼らないようにということとも関わっているのですが、実はいくらウェブで出していますとご案内をしても、やっぱり物が欲しいおっしゃる方がニーズとして結構あるので、実際どれぐらい売るのが良いのかというのは、コストの問題とかもあるので、かなり慎重に判断をして、今年度から販売用の物を作って、実際に販売しているところです。今のところ、予定通りの数ではけているかなというようには見ているので、やっぱり一定のニーズはあるかなと思っています。それから、ウェブにばかり頼らないというご指摘は、確かにその通りだと思いますので、あるデータをデータベースとしてウェブに載せることができるという事は、そのベースになるものが、いくらでも、いつでも紙媒体で出せるということとセットになっていると、こちら側では考えています。ウェブに載せたから終わりです、というようにはしないような形で、データの出し方、情報の提供の仕方ということは考えていきたいと思っています。取り急ぎ、調査研究関係は以上です。

佐々木会長 他の事項については、いかがでしょうか。

舟山学芸部長 最後の方にご質問がございました資料審査会についてでございますけれども、「平成27年度事業実績」と「平成28年度年度計画」でご指摘がありましたように、その過程、目標値を立てて、その結果どうなったのかと、その過程が見えないというところがございますので、それを改めて、どういう形で示すのがわかりやすい方法なのか検討して参りたいと思っています。

佐々木会長 ありがとうございます。

右代学芸主幹 それではいろいろご意見を頂きましたが、内容を更に検討して精査しながら次の回にご報告していきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

佐々木会長 ありがとうございます。次回3月の協議会に向けて、検討して頂きたいと思っています。最後1つご質問ということで、竹垣委員よろしくお願いいたします。

《質疑応答 5》

竹垣委員 児島委員が質問された最後の件ですが、我々の常識で考えて、180,599 件の収蔵物があるところに、持ち込まれた件数が 197 件と言うのは多いのですか。少ないのですか。

舟山学芸部長 実際には、北海道博物館が昨年オープンするまで、基本的には資料の収集を控えておりました。基本的には、原則展示に必要なものがあれば受け入れるという体制を整えておまして、実質オープン準備に向けて事業を進めていたところでございます。収集過程については、若干遅れております。資料点数も、昨年度の審査会を経て、資料収集を決定していながら、受け入れがまだできていないというものもでございます。そういったものの、状況達成度も含めて、示すことができるように検討して参りたいと思っております。

竹垣委員 もう 1 つ聞きますけど、180,599 件については、データベースは完成しているという理解でいいですね。

舟山学芸部長 データベースにおきまして、移行の部分で時間が掛かっておまして、充実するための作業を今進めているところでございます。

《意見・提案 7》

竹垣委員 受け入れ対策も受け入れ体制も明らかでないと。データベースも未整理の中でどうやってレファレンス 800 件という話が出て来るのかわからない。今までの開拓記念館ではないという理解を、博物館の皆さんに持って頂きたいですよね。北海道博物館という名前を名乗られたのですよね。今の北海道における世帯の崩壊とか、収蔵物のコレクションを持てない状況というのは、可及的速やかに行わなければいけないと思うんです。その時に受け入れ先はどこかというのと、やっぱりここ（北海道博物館）だと思っんですよ。ですから、去年は 198 件でしたと。ひょっとしたら一万件あって、198 件に絞りに絞られたのかもしれないですけど、そういう体制では困ると思います。ですから、是非そういうことについては早急に、これも実はいつまでというのが（年度計画）の中に入っているのですが、少なくとも今年ぐらいには体制を整えて頂きたいと思います。

佐々木会長 ありがとうございます。あと委員の方どうしてもひとこと言いたいというご意見はありませんでしょうか。

《意見・提案 8》

本田委員 この会議はどうしてもこの時期にしか開けないのでしょうか。去年は、遅くて当然だったのですが、年度の計画がほとんど進んで、事業が行われている時にご意見を申し上げても、なかなか組み入れて頂けないことが多いので、多分年度の決算とかと係ることでしたら、当然監査を受けた後というのもわかるんですけども、ここは金目のことは関係ないような感じですので、そうなりますと、できるだけ早くもし協議会が開かれれば、もう少しご意見の申し上げ方もあるのかなというような気がします。次回以降の協議会のメンバーの方のことも考えて、そういうことが可能ならば、できないのかなという要望です。

佐々木会長 時期をもっと早くという意見は、その通りだと思います。特に事務局の方からコメントありますか。他にはどうでしょうか、よろしいでしょうか。今回、様々な意見や要望が出ました。次の協議会は 3 月を予定しておりますけれども、そこでは外部点検をやるのが協議

会での一番大きな仕事になると思います。そのためには、当然内部評価の報告書が出て来る訳で、今色んなご要望があったように、もちろん数も大事ですけど、その中でどんな課題が見出されたのかとか、どんな成果があったのかということも、出た上で我々も外部の点検ができることになるのではないかと思います。プラス、これは私から協議会の方への要望ですが、現場を見ないとそもそも話が出来ないと思いますので、私も出来るだけ学生と一緒に企画展示であるとか、いろいろなイベントを見してみるように心がけておりますけれど、皆さん方もできるだけ、まず展示なりイベントを見た上で、3月の外部点検に臨んで頂ければありがたいと思います。では、この議題の2番目の報告事項については、これで終わりにしたいと思います。皆さん、様々のご意見ありがとうございました。では、その他で一つあるということで、お願いいたします。

議題（3）その他

右代学芸主幹 その他のところで2件ほどございます。北海道百年記念施設のあり方についてというのが、本庁を含めて、いろいろな議論が進められておりますので、その報告を行いたいということと、協議会の今後の予定についてご案内したいと思っております。北海道百年記念施設のあり方については、文化振興課の堀籠主幹の方から簡単に状況についてご報告いたします。

堀籠主幹 先程、北総務部長の方から計画の中でお話があったと思います。様々な課題だとかをクリアして行かなければいけないだろうなと思いつつ、お話を伺っておりました。短期的な年度で解決できるものについては、普段から北海道博物館の職員と協議を行いながら、必要な予算を確保するために努力しておりますが、中長期的に野幌地区にある百年記念塔、北海道博物館、開拓の村の3施設が、今後どうあるべきなのか。北海道博物館は、昭和46年に発起したものでございます。百年記念塔は昭和43年に工事に着手して、昭和45年に完成。昭和46年に一般の道民に開放した。北海道開拓の村は昭和58年にオープンしました。それぞれ、北海道開拓の村でも33年。北海道博物館なり百年記念塔は間もなく50年、46年を過ぎてしまいました。老朽化しながら今日まで来たというところでございます。今後また、道民の皆さんの声を聞きながらやっていかないといけないと思っております、(百年記念施設のあり方について) 今年の1月に本庁の主幹級と、博物館の学芸主幹を委員として、これまで3回議論を重ねて来ております。今年度中には、主幹級のものの考え方については、まとめたいと思っております。それ以降、どうすべきかを有識者の声を聞きながら、平成29年度中、平成28年度、平成29年度かけて、議論を行って報告ができればと思っております。以上です。

右代学芸主幹 ありがとうございます。もう1点の方でございますが、今後の協議会についてでございます。本日8月10日に第1回目の協議会を開催させて頂きましたが、本来であれば6月に計画してたものでございます。様々な事情やご多忙な委員の皆様のご都合もあり、8月5日という形になったわけでございます。様々なところで事務局の至らないところがあったかと思います。8月25日にアイヌ民族文化研究センター専門部会を開催いたします。今日の議題と同じような内容で、進めさせて頂きたいと思っております。第2回の博物館協議会につきましては、3月の中旬ぐらいになるかと思いますので、その辺りをご予定して頂ければと思

ます。平成29年度、30年度、31年度については、前回の協議会でご説明をさせて頂いた通り、日程についてはこの通りで進めさせて頂けたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

4 閉会

佐々木会長 ありがとうございます。今の事務局からのご説明について、何か質問等ありますでしょうか。それではこれをもって、本日の協議会は終了したいと思います。皆様どうもありがとうございました。ご苦勞様でした。